

2024 年度年報発行にあたって

公益財団法人泉屋博古館の 2024 年度年報をお届けいたします。

泉屋博古館は、住友家が収集した美術品の寄贈を受け、昭和 35 年 (1960) に財団法人として設立され、現在、京都と東京におきまして、保存、調査研究、公開の各事業をおこなっております。

2024 年度は、泉屋博古館東京におきまして、3 回の館蔵品企画展と 2 回の特別展を開催いたしました。そのうち板谷梅樹の特別展と尾竹三兄弟の特別展は、これまで美術館の展覧会としてあまり採りあげられることのなかった作家にスポットを当てた企画でしたが、関係各位のご尽力により、想定を上回る多くの観覧者にご覧いただくことができました。とくに尾竹は当時の住友家と関わりの深い画家で、この展覧会を契機として、今後、住友の美術館ならではの様々な視点で公開を進めてまいります。またこのような特別展の他にも、企画展として、住友コレクションの漆工芸品や絵画の展覧会を開催し、東京館単独では過去最多となる入館者数を記録いたしました。

京都本館は 2024 年 1 月より増改築工事のため休館し、老朽化した施設設備の更新、企画展示室の拡張及び青銅器展示室のリフレッシュ、さらには新収蔵庫の新築などを進めております。これまで半世紀にわたる京都本館の伝統を継承しながら、現代の美術館に求められる機能の向上を目指しまして本年 4 月にリニューアルオープンいたします。

このような東京の各展覧会、京都の増改築工事におきまして、関係諸機関の皆様より多大なご支援を頂戴いたしましたこと、心より御礼申し上げます。住友グループの文化・社会貢献活動の一翼を担う存在として、より一層充実した美術館活動を展開する所存でございます。引き続きのご支援、ご指導をたまわりたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

公益財団法人 泉屋博古館
理事長 奥 正 之



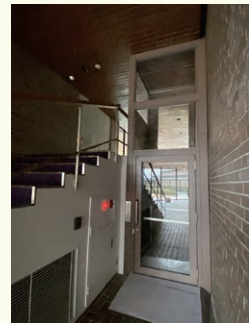
泉屋博古館リニューアルオープンに向けて

泉屋博古館（京都）は1970年大阪万博開催の年に竣工した1号館と1986年竣工の2号館のふたつの建物、また水流のある前庭「泉屋博古の庭」や東山の借景が美しい中庭をそなえている。これらをひとつの空間としてこの先も大切に守り、多くの方により一層快適にご利用いただくことを目指してこのたびリニューアル工事の実施に至った。

2023年から設計を進め2024年2月に着工、新収蔵庫増築と既存建物内部の改修を行い、計画通り2025年3月末の竣工も目前となった。その間、近隣でも大規模工事が実施されるなか近隣住民の皆様のご理解とご協力をいただきながら、設計・施工業者など関係者各位のご尽力により事故等なく順調に進行している。

工事に先がけて収蔵庫内の収蔵品は館内外に一時保管のため移管したが、他館で多くのご来場者にご鑑賞いただく機会を得た。さらに、工事休館中も当館の公式ウェブサイトやSNSを通じて収蔵品に関する情報やデジタルコンテンツを公開し、また学芸員は例年にも増して調査研究に励み東京館での展覧会企画のほか外部講演なども継続して行った。

当館は現在、2025年4月26日のリニューアルオープンに向けた展覧会の準備や館内整備に鋭意邁進中であるが、今後も多くの皆様に、変わらず落ち着きのある空間でゆったりとお過ごしいただけるよう工夫を重ねてまいりたい。



車椅子の方も安心してご来館いただけるように



バックヤードも最新の設備で支え「人も作品も安全に」

公開事業の概要

泉屋博古館東京（以下「東京」、泉屋博古館は「京都」と表示することがある）

展覧会名	期間	入館者数			
		有料	優待	計	1日平均
企画展 うるしとともに —くらしのなかの漆芸美— 同時開催 受贈記念 伊万里・染付大皿の美	1/20～2/25 (32日間)	4,643	3,963	8,606	269
企画展 ライトアップ木島櫻谷 —四季連作大屏風と沁みる「生写し」— 同時開催 住友財団助成による文化財修復成果—文化財、永製に	3/16～5/12 (50日間)	11,094	6,342	17,436	349
企画展 歌と物語の絵 —雅やかなやまと絵の世界— 特集展示 没後100年記念 黒田清輝と住友	6/1～7/21 (44日間)	9,843	5,263	15,106	343
特別展 昭和モダン、モザイクのいろいろ 板谷梅樹の世界 特集展示 住友コレクションの茶道具	8/31～9/29 (26日間)	13,803	6,082	19,885	765
特別展 オタケ・インパクト —越堂・竹坡・国観、尾竹三兄弟の 日本画アナキズム—	10/19～12/15 (50日間)	10,832	6,136	16,968	339
24年度 東京入館者計	202日	64% 50,215	36% 27,786	対前年 +12,993 78,001	386



企画展 うるしとともに ーくらしのなかの漆芸美
同時開催 受贈記念 伊万里・染付大皿の美
会期：1月20日ー2月25日

住友コレクションの漆芸品を、用いられてきたシーンごとにひもとき、漆芸のもつ魅力を紹介した。また、近年寄贈を受けた瀬川コレクションを受贈後初公開した。
(主催：公益財団法人泉屋博古館、日本経済新聞社)



能登半島地震への義援金募金箱を設置、(公財)日本工芸会に指定寄付を行った。



展示風景



【同時開催】
受贈記念 伊万里・染付大皿の美



関連催事

・記念講演会

「宴の器～伊万里大皿の粋」

1月21日（東京講堂・49名）

荒川 正明 氏（学習院大学文学部哲学科教授）

伊万里染付大皿の見どころやその魅力について
お話を伺った。



記念講演会（荒川氏）

・連続講演《アート with》レクチャー

「アートテラー物語」

2月2日（東京講堂・29名）

アートテラー・とに～氏（アートテラー）

ブログやイベント等を通じ美術の魅力や楽しみ方を
親しみやすく伝える「アートテラー」の仕事について
お話を伺った。



アート With（とに～氏）

・記念講演会「能楽の中の漆芸」

2月4日（東京講堂・47名）

高尾 曜 氏

（独立行政法人日本芸術文化振興会 国立能楽堂
事業推進課主任専門員 兼 調査資料係長）

能楽の中で用いられている漆芸品や能楽がモチーフ
になっている漆芸品についてお話を伺った。



記念講演会（高尾氏）

・うるし体験ワークショップ

「蒔絵に挑戦！豆皿を彩ろう」

2月11日（東京講堂・20名）

室瀬 智弥 氏（目白漆學舎）

漆や蒔絵についてのミニレクチャーの後、塗りの
豆皿に漆で文様を描き、金粉で蒔絵を施すワーク
ショップ。



ワークショップ（参加者）

・スライドトーク（東京講堂）

2月9日（44名）竹嶋 康平（京都 学芸員）

2月16日（38名）森下 愛子（東京 学芸課長）

企画展 ライトアップ木島櫻谷 —四季連作大屏風と沁みる「生写し」
同時開催 住友財団助成による文化財修復成果—文化財よ、永遠に
会期：3月16日—5月12日

木島櫻谷の四季それぞれの花が多彩な構図で描かれた金屏風四双を一挙展示した。京都画壇の花鳥表現にも注目し、櫻谷の絵画表現の特質を照らし出した。（主催：公益財団法人泉屋博古館、毎日新聞社）



展示風景



【同時開催】

住友財団助成による文化財修復成果

—文化財よ、永遠に

住友財団による文化財維持・修復助成作品展示を併催。泉屋博古館蔵の《木造毘沙門天立像》《松・牡丹孔雀図衝立》を修復工程の展示パネルと共に紹介した。



関連催事

・ 記念講演会

「京都派の写生表現について」

—彼らは何を写そうとしているのか—

4月20日（東京講堂・50名）

田島 達也 氏（京都市立芸術大学美術学部教授）

櫻谷につながる京都派の写生表現についての歴史と、その表現についてのお話を伺った。



記念講演会（田島氏）

・ 連続講演《アート with》レクチャー

「美術館と空気環境」

4月5日（東京講堂・19名）

山崎 正彦 氏（光明理化学工業株式会社）

作品に影響を及ぼす化学物質が含まれている空気環境の管理についてお話を伺った。



アート with（山崎氏）

・ ロビーコンサート

「息吹を聴く～尺八と自然描写～」

4月13日（東京ロビー・37名）

演奏：津上 弘道 氏（尺八演奏）

琴古流尺八演奏家の津上弘道氏による、尺八のロビーコンサート。



ロビーコンサート（津上氏）

・ ワークショップ

「絵画を支える下地建具の技術」

—フォトフレームを作ろう！—

4月27日（東京講堂・17名）

白井 浩明 氏（黒田工房代表）

修復ならびに選定保存技術である「表装建具製作」についてお話を伺った後、フォトフレームを作り、表装建具（襖や屏風などに使う木製の骨組み）の製作技術を体験。



ワークショップ（白井氏）

・ 夕焼けスライドトーク（東京講堂）

3月22日（47名）

3月29日（37名）

4月26日（54名） 野地 耕一郎（東京館長）

企画展 歌と物語の絵—雅やかなやまと絵の世界
特集展示 没後 100 年記念 黒田清輝と住友
会期：6 月 1 日—7 月 21 日

古来、文学と関わりの深いやまと絵。近世から近代までの歌絵と物語絵、歴史画を住友コレクションから選りすぐり、絵巻や屏風に展開する雅やかな世界を紹介した。
(主催：公益財団法人泉屋博古館、日本経済新聞社)



ホールに大型モニターを常置、屏風細部の高精細画像より、精緻な表現を紹介し屏風鑑賞の手がかりとした。



展示風景



【特集展示】

没後 100 年記念 黒田清輝と住友

黒田清輝の没後 100 年を記念し、須磨別邸とともに焼失した黒田の代表作《昔語り》をその下絵や画稿から紹介するとともに、春翠と黒田の交流を書簡より紹介した。



関連催事

・記念講演会

「響き合うイメージ—源氏物語の美術」

6月8日（東京講堂・52名）

佐野 みどり 氏

（『國華』主幹、学習院大学名誉教授）

源氏物語の美術について中世・近世の絵巻研究を専門とされる佐野先生にお話を伺った。



記念講演会（佐野氏）

・連続講演《アート with》レクチャー

「展覧会をつくる、造作のひみつ」

6月21日（東京講堂・41名）

風坂 智和 氏（株式会社芸宣）

展覧会に欠かせない「造作」にスポットを当て、美術館との連携など舞台裏のお話を伺った。



アート with（風坂氏）

・特別企画

「京ことばで楽しむ源氏物語図屏風」

7月1日（東京展示室・34名）

女房語り：山下 智子 氏

展示室内で《源氏物語図屏風》に描かれた名場面を古い京ことばの語りとともに鑑賞、大型モニターの高精細拡大画像を用い繊細に描かれた登場人物の機微を読み解くなど、目と耳で物語の魅力にふれた。



女房語り（山下氏）

・特別講演会「黒田清輝《昔語り》の舞台裏」

7月13日（東京講堂・49名）

吉田 暁子 氏（東京文化財研究所研究員）

黒田清輝の大作《昔語り》。住友家との関わりを含め、作品の制作背景についてお話を伺った。



特別講演会（吉田氏）

・スライドトーク（東京講堂）

6月14日（50名）

7月2日（57名）

実方 葉子（当館 学芸部長）

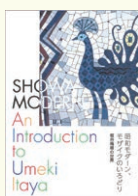
特別展 昭和モダン、モザイクのいろどり 板谷梅樹の世界

特集展示 住友コレクションの茶道具

会期：8月31日～9月29日

「昭和」モダンのアートシーンを飾ったモザイク作家・板谷梅樹（いたやうめき、1907～1963）の作品を一堂に集めた初の展覧会。梅樹の父である近代陶芸の巨匠・板谷波山の作品も共に展示し、カラリストと称された波山と梅樹の美の競演が実現。（主催：公益財団法人泉屋博古館、板谷波山記念館、毎日新聞社）

展覧会に併せて『昭和モダン、モザイクのいろどり 板谷梅樹の世界』図録を2,700部刊行した。



展示風景



【特集展示】

住友コレクションの茶道具

住友コレクションの茶道具より、仕覆の修復が完了した仁清《唐物写十九種茶入》をはじめ選りすぐりの名品を紹介した。



関連催事

・記念講演会「モザイク作家・板谷梅樹を語る」

8月31日（東京講堂・60名）

荒川 正明 氏（本展監修者・学習院大学教授）

特別展「板谷梅樹の世界」監修者の荒川正明氏と板谷梅樹令息・板谷駿一氏（公益財団法人波山先生記念会理事長）との対談形式でモザイク作家・板谷梅樹の人となりと作品を通じた魅力についてお話いただいた。



記念講演会（板谷氏・荒川氏）

・講演会「古代モザイクの歴史と技法」

9月8日（東京講堂・58名）

ヤマダカズキ 氏（モザイク作家）

古代モザイクの歴史とともに、イタリアなどに遺る様々な作品とそれらの制作技法について、スライドで紹介、実際の道具や作品とともに詳しく解説いただいた。



講演会（ヤマダ氏）

・連続講演《アート with》レクチャー

「美術館学芸員の仕事とは一板谷梅樹展の場合」

9月13日（東京講堂・45名）

森谷 美保 氏（美術史家）

「板谷梅樹の世界」展の開催までを例に、美術館の「学芸員」の仕事内容について講演。



アート with（森谷氏）

・講演会「茶道具・仕覆の修復について」

9月15日（東京講堂・55名）

三浦 和子 氏（袋師）

当館所蔵作品の袋や仕覆の修復について、展示作品の実例も交えてお話を伺った。



講演会（三浦氏）

・昭和歌謡コンサート

10月1日（東京ロビー・30名）

演奏：バリなかやま氏（ギター流し）

ギターと歌の生演奏で昭和歌謡を楽しむ、和やかなひとときとなった。



昭和歌謡コンサート（バリなかやま氏）

・スライドトーク（東京講堂）

9月5日（64名）

9月12日（65名）

森下 愛子（東京 学芸課長）

特別展 オタケ・インパクト
— 越堂・竹坡・国観、尾竹三兄弟の日本画アナキズム
会期：10月19日～12月15日

明治から昭和にかけて活躍しながらも美術史の語りから零れ落ちた、尾竹越堂（1868～1931）、竹坡（1878～1936）、国観（1880～1945）の三兄弟を東京で紹介する初めての展覧会。重要作をはじめ、多数の新出作品や未公開資料から、知られざる尾竹三兄弟の人と作品を紹介した。芸術文化振興基金助成事業。（主催：公益財団法人泉屋博古館、日本経済新聞社）

特集展示「清く遊ぶ 一尾竹三兄弟と住友」＊16頁参照



展示風景



展覧会に併せて『オタケ・インパクト』図録を2,500部刊行した（求龍堂発行）。

関連催事

- ・ こども鑑賞会（対象：4歳～小学6年生）

11月3日（東京展示室・7組18名）

椎野 晃史（東京 主任学芸員）

開館時間前に、学芸員とともに作品の前で対話しながら鑑賞するプログラム。発見や感想の共有など、じっくり作品鑑賞のできる時間となった。



こども鑑賞会（椎野）

- ・ シンポジウム「尾竹三兄弟を解き放つ」

11月16日（東京講堂・67名）

基調講演：菊屋 吉生 氏（山口大学名誉教授）

登壇者：坂森 幹浩 氏（富山市郷土博物館長）

加藤 敦子 氏（敦賀市立博物館学芸員）

野地 耕一郎（東京館長）

モデレーター：椎野 晃史

「展覧会芸術の申し子」と謳われながらも、いつしか美術史の語りから零れ落ちた尾竹三兄弟について、各分野の専門家が多角的な視点から掘り下げて討議した。



シンポジウム（左から菊屋氏・坂森氏・加藤氏）

- ・ ワークショップ「触れる、日本画」

11月30日（東京講堂・13名）

長澤 耕平 氏

（日本画家・東京藝術大学インストラクター）

《大漁図》の部分模写に着色をし、膠や顔料の調合など、日本画の画材を実際に体験するワークショップ。



ワークショップ（長澤氏）

- ・ 連続講演《アート with》レクチャー

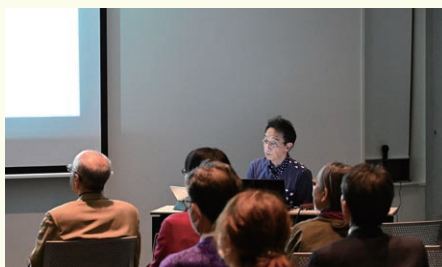
「美術司書の仕事」

12月6日（東京講堂・39名）

橘川 英規 氏

（東京文化財研究所 近・現代視覚芸術研究室長）

書籍や新聞・雑誌等から美術に関係する情報を収集・整理する専門家「美術司書」の仕事についてお話を伺った。



アート with（橘川氏）

- ・ 記念講演会

「オタケの表現、技法材料から」

12月7日（東京講堂・49名）

荒井 経 氏（日本画家・東京藝術大学教授）

尾竹三兄弟の絵画表現について、技法や材料の面からお話を伺った。



記念講演会（荒井氏）

- ・ スライドトーク

10月26日（42名）

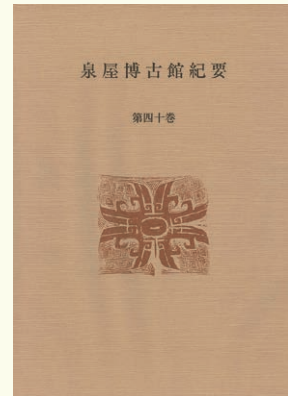
11月9日（32名） 椎野 晃史

2024 年度の主な調査研究事業

1. 泉屋博古館紀要の執筆・編集

「泉屋博古館紀要」第 40 巻を 12 月に刊行した。

本号は小南一郎論文、海原亮 氏（住友史料館副館長）論文、実方葉子論文の計 3 篇を掲載した。



『泉屋博古館紀要』第 40 巻

2. 館藏品基礎調査研究

「日本近代銅器の基礎的調査研究」（廣川・山本・竹嶋）

2023 年度に寄贈を受けた日本近代銅花器について基礎データ

取得を実施し、その特徴を把握することにより、25 年度泉屋博古館東京での公開に向けて準備を進めた。

「館蔵洋画の調査研究」（野地）

館蔵洋画・彫刻に関しては、河久保正名や仙波均平など、優品が収蔵されながら見落とされてきた作家・作品が散見される。

また岸田劉生など近年の研究成果を踏まえ多視点からの見直しを推進した。

「館蔵の洋食器を中心とした近代洋食器研究」（森下）

明治時代以降、洋食器文化の輸入により日本各地で洋食器が生産されるようになった。住友コレクションには住友家の洋館で使用された、最初期ディナーセットなどがみられる。当時の国内における洋食器の供給ならびに需要者について調査を実施した。作品調査の報告を 3 回シリーズとして展覧会にて発表。

第 1 回はヨーロッパ初の磁器製作に成功したドイツのマイセンに注目し、2025 年秋季展

「巨匠^{メルヘン} ハイッツ・ヴェルナーの描いた物語—現代マイセンの磁器芸術—」展にて、洋食器の技術、意匠を紹介する。



2024 年購入作品より 初代伊東陶山
《色絵草花文カップ＆ソーサー》泉屋博古館東京

「茶道具の調査研究」（森下）

館蔵の茶道具について、新収品を中心に、

①付属品の再調査

②購入記録並びに茶会記との照合

を行い、江戸期から大正期に至る茶道具のコレクション形成史をまとめる。

2024 年秋季展「特別展 昭和モダン モザイクのいどり 板谷梅樹の世界」特集展示、2025 年春季展 1「花器のある風景」展にて一部成果を紹介した。



2025 年春季展 1「花器のある風景」展

「館蔵中国陶磁の基礎研究」（竹嶋）

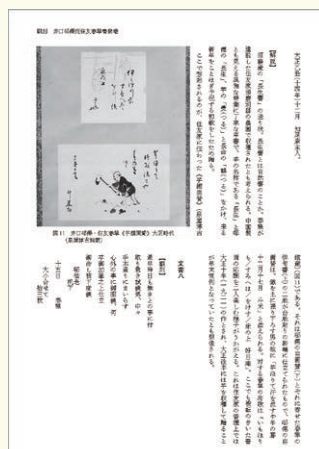
館蔵の中国陶磁の基本調査および箱書の記録を行う。また、過去の茶会記とりわけ煎茶会記に記録された中国陶磁のリストアップも開始した。春翠の煎茶に関する活動を執筆した。（『美術フォーラム 21』48 号「《亦復一楽帖》をめぐる或る茶会——大正文人たちの幕末への追想」）

「館蔵竹工芸の基礎研究」（竹嶋）

館蔵の竹工芸（花入、茶杓、蓋置）や藤工芸（花籠）、瓢工芸（花入れ）等の基本調査および箱書の記録を継続している。

「1 号館建築資料のアーカイブ化」（竹嶋）

1 号館建築にまつわる資料の整理に着手した。建築図面のデジタル化を京都工芸繊維大学の協力のもと実施している。また建築図面の分析、建築本体への評価も同大学に協力を仰ぎながら進めている。



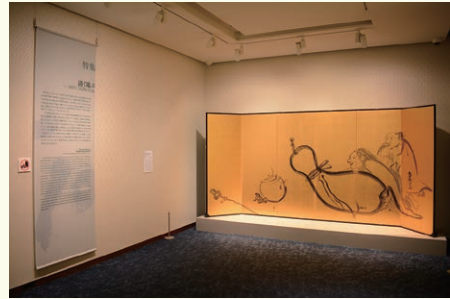
『泉屋博古館紀要』第 40 巻に掲載の論文

「館蔵書画の表装裂のデータベース作成」（実方）

館蔵書画に用いられる表装裂について、23 年度展覧会成果も踏まえ、伝来や装丁者などの調査を継続し情報を集約した。表具師井口邨僊宛春翠書簡の翻刻、解題を紀要に掲載。

「館蔵日本画及び洋画の基礎研究」(椎野)

館蔵の日本画及び洋画に関して、作家研究を推進した。特に尾竹三兄弟の事績を資料から見直し、また春翠と直接親交を結んだことからその交流を明らかにした。



春翠と尾竹三兄弟の交流を象徴する
《席画合作屏風》(右隻)

「館蔵染織作品の基礎研究」(田所)

館蔵の染織作品に関して、基本情報の整理、データベース化、および技法や状態の確認・調査を進めた。今年度は特に、住友コレクションの能装束について詳しく調査を行い、状態の確認とともに、使用されている染織技法や加飾技法の確認を行った。将来的には外部の作例との比較検討をとおして、染織史上における位置づけを目指す。



《紅地時鳥薬玉模様縫箔》より刺繍部分

「美術品収集経緯研究」(全員)

継続実施している明治大正期住友家美術品収集経緯の研究について、昭和期の購入資料の検討とデータベース化を実施。

3. 専門研究 (館蔵品関連分野)

「中国先秦時期の社会と文化」(小南)

中国先秦時期(二里头文化から秦漢帝國の成立まで)の社会制度と思想文化とに視点を置き、出土文物と文献資料とを相互に参照しつつ、中国的な特質を具えた社会の発展過程について検討を加えた。

「中国近世の文芸と民衆信仰」(小南)

中国近世の民衆的な文芸をめぐって、文献資料と実地調査の成果とを基礎に、民衆的な信仰と生活倫理のありかたについて探求した。本年度は、昨年度に引き続き画像(おもに屏風画)を資料として、そこに表明されている生活の中の倫理観について考察した。

「中国古代贈与儀礼の研究」(山本)

中国古代におこなわれた贈与儀礼について、古典文献に加えて新出の考古資料・文字史料も踏まえつつ、その歴史的展開と国家形成とのかかわりについて検討する。

4. 他研究機関との共同調査研究

「木島櫻谷の調査研究」(実方)

櫻谷文庫所蔵のうちマクリ資料を同文庫と共同で調査。また櫻谷収集中国書画の調査を関西中国書画コレクション研究会と進め、公開研究会「近代京都における日本画家の中国書画受容」(於：京都大学人文科学研究所、橋本循記念会助成)を開催。



公開研究会「近代京都における日本画家の中国書画受容」の様子

「中国古代青銅器製作技術の研究」(山本・廣川)

歴史語言研究所・芦屋釜の里との共同研究。24年度はこれまでの研究成果をもとにした鑄造実験およびその状況を記録する4K動画撮影を実施した。

「中国青銅器の高精度三次元計測データの解析」(廣川)

富山大学芸術学部と共同で実施している青銅器の三次元計測データについて、断面形状および全体厚偏差分布の解析を実施する。24年度は主に青銅酒器について解析を進めた。

「日本茶道文化史における中国金工品の受容と展開」(山本)

茶道資料館・芦屋釜の里との共同調査研究。24年度は野村美術館での調査成果を同館紀要に発表し、いわゆる胡銅の製作技法に関する基礎的な知見を提示した。

「近代染織史の基礎資料研究」(森下)

館蔵の染織作品を基本資料として、近代の染織品における様式変遷ならびに技法を比較する。東京文化財研究所無形文化遺産部との共同研究。

「展覧会芸術研究」(椎野)

近代日本画における主題選択や表現様式を変容させた展覧会の制度に注目し、同時代資料から「展覧会芸術」という言葉の使用範囲と用法を探る。本年は尾竹三兄弟の活動を通じて、当時の展覧会の力学について考察を行い、図録論文を執筆した。

「古代東アジアの祥瑞と王権—漢～唐代成立の瑞獣画像をめぐる学際的研究—」(山本)

24年度は『稽瑞』の訳読に加え、国際シンポジウム「吉凶とかたち—古代東アジアの自然観と動物観—」(於：青山学院大学)を開催、オンラインを含め700名近くが参加した。



国際シンポジウム「吉凶とかたち—古代東アジアの自然観と動物観」の様子

「図像・出土器物・文献資料による古代東アジアにおける饗宴システムの復元と比較研究」
(山本)

24年度は中国古代の重要な酒器のひとつである「爵」の命名と用途の問題についてあつかった論文を『駒澤考古』第49号に発表。

「周王の諸国統治の方策とその展開の形態—新出金文を手がかりとして」(山本)

新出の金文資料を手がかりとして、周代における王と諸侯の関係の実態を明らかにすることを目的とした研究課題。24年度は金文資料を実見するため、白鶴美術館所蔵品の調査を実施した。

「吉田ふじを基礎研究」(椎野)

洋画家・吉田博の妻であり、女流洋画家の先駆けでもある吉田ふじをについて、遺族のもとに遺された基礎資料の整理を行った。

2024 年度の美術品収集

1. 美術品購入

当館コレクション充実のため、館蔵品と関連のある作品として近世末から現代にかけての絵画、工芸を対象とし、購入、寄託、受贈の検討を進めている。本年度は、下記の6点を購入した。

泉屋ビエンナーレ 2021 出展作品

《きいてみたいこと ～ Who are you ? ～》 佐治 真理子

《ほねを いれる ための ようき》 見目 未果



《きいてみたいこと ～ Who are you ? ～》

泉屋ビエンナーレ 2023 出展作品

《地上から私が消えても、青銅》 梶浦 聖子

《time capsule》 久野 彩子



《ほねを いれる ための ようき》



《地上から私が消えても、青銅》



《time capsule》

陶磁器

《色絵金彩花鳥文花瓶》

幹山 伝七 明治時代

絵画

《双鹿図》

木島 櫻谷 明治 30 年代



《色絵金彩花鳥文花瓶》



《双鹿図》

2024 年度の美術品修復

1. 青銅器

・《井季貞》

本器は釣手の付け根が破損しており、取り付けのために器壁に穿孔して安全ピンで固定しなければならなかった。

井季貞は展示機会も多いため、実績ある専門業者に修復を依頼した。



釣手をゴムと安全ピンで固定

2. 絵画

・重要文化財《佐竹本三十六歌仙絵切 源信明》

本作は最古級の歌仙絵の重要作品。

巻皺や折れが進行し、画面の剥落や欠失の恐れがある。文化庁との協議のうえ本年度春より2カ年計画で解体修理を実施、本年度は折れ伏せまで実施した。

(国庫補助・住友財団助成)



修復前

・ジャン＝ポール・ローランス《マルソー将軍の遺体の前のオーストリアの参謀たち》

全体的に絵具層の剥離や欠損、画布の窪みや裂けが生じており、クリーニング、剥落止め、亀裂部分の補強・張り直し、穴の補填・補彩など進めている。

(5000 千円、2025 年継続)



クリーニング途中経過

・浅井忠《河辺の古城址》

木地に石膏装飾の額に大きな割れがあり、極めて脆弱な状態にあったため、割れ部分の接着補修を行った。また現額縁に外枠を新しく取り付け、低反射アクリルや裏板（ポリカーボネイト）を取り付けた。（235 千円）



修復後

・尾竹越堂《白衣観音》

これまで仮表装の状態で保管されていたため、「オタケ・インパクト」展の開催にあわせて新規裏打ちを行い、軸装に仕立てた。（130 千円）

【裂地】

- (1) 一文字：牡丹唐草本金襴（京都・豊田製・平成）
- (2) 中縁：花唐草銀襴（京都西陣製・昭和）
- (3) 装縁：桐地紋蜀紵（京都西陣製・平成）

3. 茶道具

・野々村仁清《唐物写十九種茶入》仕覆

「内海」金地牡丹唐草文金襴

金襴の欠損部分が多く、表裏とも傷みがひどい。特に、底辺部分の欠損がひどい。



表地を同様の金襴を用いて補絹し、仕覆の形状を保てるようにした。また、表地の傷みが著しく、茶入の出し入れをせずに仕覆を保持・保管した方が良いと判断し、新たに中込を作製した。（300 千円）

4. 工芸

・辰砂釉天球瓶（瓶座付き）「大清雍正年製」銘

大郷理明氏より受贈した作品。中国・清朝の雍正年間（1723～35）に製作されたもの。

東京館 2025 年春「花器のある風景」展に出品できるよう、かつての姿を復元する。

（200 千円）

1. 頸部下部に割れたのち修復した跡が全面に残っているため、解体
2. 古い修復跡の除去
3. パーツを再度接合する
4. 接合部に辰砂釉を埋め込む
5. 表面の彩色を調整し仕上げ、表面を磨く



古い修復跡を除去し、解体したところ



修復後

2024 年度の収蔵品貸出

渡辺花仙《四季花鳥画帖》（東京）

「決定版！女性画家たちの大阪」（大阪中之島美術館：2023 年 12 月 23 日～2024 年 2 月 25 日）

青銅器鋳型・鏡范・五銖錢鋳型 計 13 点（京都）

研究課題「土製鋳型を中心とした冶金関連資料による東アジア冶金史学の構築」（課題番号：20H01365
基盤研究（B）研究代表者：丹羽崇史）のため（奈良文化財研究所：2024 年 1 月下旬～2025 年 1 月下旬）

鹿子木孟郎《ノルマンディーの浜》（東京寄託）

「洋画の青春―明治期・三重の若き画家たち」（三重県立美術館：2024 年 1 月 27 日～4 月 14 日）

《青貝芦葉達磨香合》、千宗旦《青貝芦葉達磨香合添状》（東京）

四百年遠忌記念特別展「大名茶人 織田有楽斎」（京都文化博物館：2023 年 4 月 22 日～6 月 25 日、
サントリー美術館：2024 年 1 月 31 日～3 月 24 日）

岸田劉生《二人麗子像（童女飾髪図）》（東京）

特別展「崇高さに関する抽象的な覚書」（広島市現代美術館：2024 年 3 月 30 日～6 月 9 日）

山本芳翠《虎石膏像》（東京）

「PARALLEL MODE：山本芳翠 ―多彩なるヴィジュアル・イメージ―」（岐阜県美術館：2024 年 9 月
27 日～12 月 8 日）

姫島竹外《竹溪曉霽図》（東京）

特別展「仙境 南画の聖地、ここにあり」（和歌山県立近代美術館、田辺市立美術館、熊野古道なかへち
美術館（田辺市立美術館分館）：2024 年 10 月 5 日～11 月 24 日）

呉春《蔬菜図巻》（京都）

特別展「呉春一画を究め、芸に遊ぶ―」（大和文華館：2024 年 10 月 19 日～11 月 24 日）

木島櫻谷《望郷》（櫻谷文庫蔵・京都寄託）

特別展「巨匠たちの学び舎 日本画の名作はこうして生まれた」（京都市京セラ美術館：2024 年 10 月
11 日～12 月 22 日）

2024 年度外部機関協力・広報

1. 職員による外部講演

山本 堯

3月31日 京都市立芸術大学・泉屋博古館共催公開研究会「龍の美術史——描き継がれた霊獣の姿——」基調講演「雲龍図の成立——先秦から唐代まで——」（於：京都市立芸術大学）

山本 堯

6月9日 白鶴美術館開館90周年記念特別アート・トーク「サファリ in 中国美術——古代青銅器を中心に——」（於：白鶴美術館）

竹嶋 康平

6月20日 大阪府立和泉高等学校にて「総合的な学習（探究）の時間」授業

山本 堯

7月19日 金曜会講演「住友コレクションの中国青銅器——その魅力と価値にせまる——」（於：住友クラブ）

廣川 守・山本 堯・竹嶋 康平

8月10日 スペシャルリレートーク「住友春翠と中国古代青銅器・仏教美術」（於：奈良国立博物館）

山本 堯

8月24日 東京学芸大学現職教員研修「博物館・美術館と学校との連携——学芸員からの提案——」（於：東京学芸大学）

野地 耕一郎

9月14日 角川武蔵野ミュージアム「角川武蔵野ミュージアムコレクション展 vol.03 高山辰雄—その人と芸術をめぐる—」展講演会「追想の高山辰雄—その人と芸術をめぐる—」（於：角川武蔵野ミュージアム）

竹嶋 康平

9月18日 読売新聞美術展ナビフェスステージイベント「リニューアルオープンへの道」（於：よみうり小ホール）

実方 葉子

11月3日 開館90周年記念イベント学芸員クロストーク「われらが美術館は不易流行—かわるもの・かわらないこと—そも、ご縁は幕末生まれのコレクター!？」（於：白鶴美術館）

実方 葉子

11月16日 船場博覧会セミナー「船場の表具師・井口古今堂」（於：芝川ビル4階モダンテラス）

実方 葉子

12月1日 泉屋博古館主催公開研究会「近代京都における日本画家の中国書画受容」(於: 京都大学人文科学研究所) * 橋本循記念財団助成

山本 堯

12月7日 京都大学人文科学研究所「中国生活文化の思想史」研究班第18回研究会招待講演「殷周金文の書体変遷とその背景——鑄造技術の観点から——」(於: 京都大学人文科学研究所)

山本 堯

12月22日 二松学舎大学科研グループ国際シンポジウム「吉凶とかたち——古代東アジアの自然観と動物観——」口頭発表「鴟鵂の盛衰——瑞獣成立前史として——」(於: 青山学院大学)

2. 外部機関への協力: 大学への出講

山本 堯

立命館大学「世界の考古学・文化遺産 (L)」 2023年9月～2024年3月

森下 愛子

学習院女子大学「博物館実習」I・II B 2024年4月～2025年3月

野地 耕一郎

成城大学「博物館実習(美術史)」 「日本美術史研究 I A」 2024年4月～2025年3月

権野 晃史

武蔵野美術大学「絵画実習Ⅶ・日本画研究Ⅲ」 2024年5月13日

3. 近隣美術館・施設との連携

(京都)

- ・「京都市内博物館施設連絡協議会」継続加盟
- ・「京都市観光協会」継続加盟
- ・「京都府文化財所有者等連絡協議会」継続加盟
- ・白鶴美術館開館90周年記念特別展に
展示・催事等協力(実方、山本)



LIVING HISTORY KYOTO WEB サイト

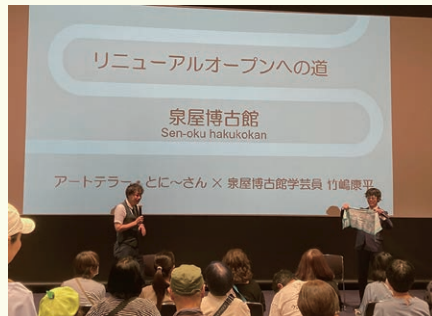
- ・Living History KYOTO (「二条城・寛永行幸四百年祭」開催実行団体) として寛永文化講座(9/7 京都ブライトンホテル、10/5 京都商工会議所、12/22 元離宮二条城香雲亭)、能楽劇(9/8 大江能楽堂)開催、9/6～10《二条城寛永行幸図》複製展示
- ・9/18 読売新聞主催「美術展ナビフェス」(於: 大手町よみうりホール) 東京館と共同でブース出展(ミュージアムグッズ展示等)
- ・11/28 京都工芸繊維大学 建築研究の学生一行来館1号館案内(竹嶋)

(東京)

- ・「ぐるっとパス 2024」継続加盟
- ・「港区ミュージアムネットワーク」継続加盟
- ・サントリー美術館、大倉集古館との年間パスポート会員入館相互割引継続
- ・港区立小学校 見学会受入
麻布小学校：2/7「うるしとともに」展 2年生、6/12「歌と物語の絵」展 6年生
東町小学校：9/13「板谷梅樹の世界」展 3年生
- ・9/18 読売新聞主催「美術展ナビフェス」(於：大手町よみうりホール) 京都本館と共同でブース出展(ミュージアムグッズ展示等)
- ・ARK Hills Music Week 2024 参加(10/1 昭和歌謡コンサート)
デジタルスタンプラリー MusicWalk! 参加
- ・港区高齢者支援課・青山いきいきプラザ主催「いきいきミュージアム巡り」見学会受入(12/4 オタケ・インパクト展)



読売新聞美術展ナビフェス ブース出店



同左ステージイベント (竹嶋)

4. 大阪・関西万博 住友館への協力

3月13日、東京館で「YOHEI OHNO」のファッションショー(東京ファッションウィーク)が開催され、大野陽平氏が住友館のアテンダントユニフォームデザインを担当することが発表された。ブランド側の要望を受けた住友 EXPO2025 推進委員会の仲介により実現した。

5. 広報活動

- ・京都：新聞、テレビ等を通じての広報

テレビ番組協力(青銅器)

1月14日 NHK 総合テレビ「ダーウィンが来た！お正月特集 龍のナゾ大研究！」(山本学芸員出演)

京都本館リニューアル告知

6月17日 産経新聞大阪・関西万博開幕特集面(名刺広告)有料出稿
11月20日 美術の窓 12月号有料出稿
11月25日 芸術新潮 12月号
11月25日 芸術新潮 1月増刊号有料出稿
12月13日 日経トレンディ 1月号臨時増刊「おとなの OFF」有料出稿
12月16日 美術展びあ 2025 有料出稿

ほかインターネットサイトに多数掲載。

・東京：新聞、テレビ等を通じての広報

企画展「うるしとともに」(主催 日本経済新聞社)

- 1月16日 朝日新聞展覧会情報一覧
- 1月17日 東京新聞展覧会情報一覧
- 1月17日 朝日新聞朝刊連合企画広告有料出稿
- 1月17日 毎日新聞広告有料出稿
- 1月19日 毎日新聞広告有料出稿
- 1月20日 東京新聞広告有料出稿
- 1月29日 よみうりシティライフ展覧会情報一覧
- 1月30日 J-WAVE"GOOD NEIGHBORS" (竹嶋学芸員収録出演)

企画展「ライトアップ木島櫻谷」(主催 毎日新聞社)

- 3月5日 毎日新聞社告
- 3月14日 毎日新聞社メールマガジン「アートの森通信」紹介記事配信
- 3月16日 毎日新聞広告有料出稿
- 4月11日 共同通信記事配信 (地方紙電子版向け)
- 4月12日 朝日新聞朝刊連合企画広告有料出稿
- 4月14日 NHK E テレ日曜美術館アートシーン放映 (再放映 4月21日)
- 4月20日 東京新聞朝刊記事 (野地館長取材記事)
- 4月26日 毎日新聞朝刊展覧会情報記事

企画展「歌と物語の絵」(主催 日本経済新聞社)

- 5月28日 朝日新聞展覧会情報一覧
- 5月29日 東京新聞展覧会情報一覧
- 6月3日 よみうりシティライフ展覧会情報一覧
- 6月17日 日本経済新聞 社告
- 6月26日 読売新聞朝刊 (特集展示紹介記事)
- 6月28日 テレビ朝日系 グッド!モーニング (椎野主任学芸員取材)
- 7月1日 毎日新聞夕刊展覧会紹介記事

特別展「昭和モダン モザイクのいろどり 板谷梅樹の世界」

(主催 毎日新聞社、後援 東京メトロポリタンテレビジョン)

- 6月9日 NHK E テレ日曜美術館アートシーン (茨城会場 / 巡回予定紹介)
- 6月～ TOKYOMXTV (後援) CM放映
- 8月23日 共同通信記事配信 (地方紙掲載多数)
- 8月30日 毎日新聞朝刊 (一面特集記事、森下学芸課長寄稿)
- 9月16日 ニッポン放送「辛坊治郎のズーム」内中継コーナー紹介
- 9月17日 朝日新聞夕刊 展覧会紹介記事
- 9月18日 東京新聞夕刊 展覧会紹介記事

特別展「オタケ・インパクト」(主催 日本経済新聞社)

- 10月中旬～11月 東京メトロ主要駅広告掲出 (B1 ポスター)
- 10月23日 共同通信記事配信 (地方紙掲載多数)
- 10月27日 日経 REVIVE 広告有料出稿
- 11月1日 朝日新聞朝刊連合企画広告有料出稿

- 11月15日 日本経済新聞電子版 展覧会紹介記事
- 11月24日 NHK E テレ日曜美術館アートシーン特別版（12月1日再放映・椎野主任学芸員出演）
- 11月26日 朝日新聞夕刊展覧会紹介記事（椎野主任学芸員取材）
- 12月3日 東京新聞夕刊展覧会紹介記事
- 12月4日 読売新聞夕刊展覧会紹介記事
- 12月25日 芸術新潮1月号（小特集：展覧会紹介記事）

ほかインターネット・地域情報紙・雑誌等に多数掲載。

学識役員懇談会

昨年に引き続き、従来の博物館評価委員会をより実質的な内容で展開するものとして、学識理事・評議員との懇談会を10月2日泉屋博古館東京で開催した。館員とのフリートーク形式で行い、当年度に開催した展覧会の内容や美術館運営について、専門的な視点からの意見、助言などを得ることができた。



特別展「昭和モダン モザイクのいろどり 板谷梅樹の世界」会期終了後に実施

その他の活動

・収藏品データベースおよび図書台帳の整備と使用開始

収藏品の管理、調査研究の効率化のため、データベースとして早稲田システム開発株式会社が開発したI.B.MUSEUM SaaSを京都、東京両館に2024年11月に導入した。使用者の同時アクセスが可能となり、すでに各作品に関する情報蓄積は急速に進んでいる。またこれに関連して、図書台帳を東西で一本化、さらに上記のI.B.MUSEUM SaaSに組み込んだ。これらは改正博物館法に位置づけられたデジタルアーカイブの作成と公開を意識した取り組みである。

・職員の新居浜／別子銅山研修

10月31日～11月1日にかけて日暮別邸記念館、別子銅山記念館、広瀬歴史記念館、別子銅山（旧山村）、旧端出場水力発電所を往訪、現地にて研修を行った。

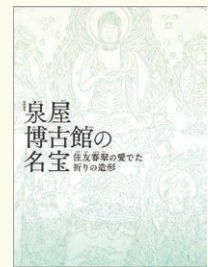


旧端出場水力発電所

京都の休館中の活動

【奈良国立博物館特別陳列】

京都（本館）改修工事に伴う休館期間中の収蔵品活用の一環で、奈良国立博物館にて7月20日から9月1日まで特別陳列「泉屋博古館の名宝—住友春翠の愛でた祈りの造形—」として、当館の青銅器・仏教美術コレクション 67 件が公開された。当館は展示、図録の発行、公開講座（24 頁参照）の実施に関し特別協力を行った。40 日開催、来場者数 62,863 人。



奈良国立博物館刊行
特別陳列『泉屋博古館の名宝
住友春翠の愛でた祈りの造形』
図録



SNSで相互広報を行った

【ウェブコンテンツ3本発表】

（協力：クラウドサーカス）

春には公式サイト、SNSにて「青銅器検定」「青銅器検定上級編」を公開、ウェブ上に顧客のコミュニティを創設した。

秋はX（旧 Twitter）で「# 泉屋博古館クイズ」を公開、正解者には AR 取得の特典があり、同取り組みは AR を使用した「# 青銅器 AR フォトコンテスト」へと展開。

（2025 年 1 月中旬投稿作品総選挙開催、受賞作品は 2 月に発表。）



公式サイト、SNS で公開
青銅器検定 (4月28日)
青銅器検定上級編 (7月22日)
合計 約 5,800 名が訪問、2,900 名が回答。



X 限定ライト層向けクイズ
11月11日～12月25日実施
のべ1,978名が訪問、1,583名が
回答、成果品の3D ARは
取得者63名。

【公開研究会やシンポジウムを主催】

継続的な研究成果を発表するため、公開研究会や
シンポジウムを主催した。

・公開研究会

「龍の美術史 描き継がれた霊獣の姿」

3月21日 (京都市立芸術大学)

京都市立芸術大学との共催

・公開研究会 * 17頁参照

「近代京都における日本画家の中国書画受容」

12月1日 (京都大学人文科学研究所)

公開研究会実行委員会との共催



公開研究会「龍の美術史 描き継がれた霊獣の姿」



公開研究会「近代京都における日本画家の中国書画受容」

京都のミュージアムボランティア

2024年の青銅器解説ボランティア登録者数は30名。

青銅器解説ボランティアは2004年に京都市の生涯教育施策への協力と当館の普及活動を目的として導入された。京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」に所属するメンバーから希望者を募り、当館主催の初回研修（10～12回）を修了した者が活動している。

青銅器解説ボランティアは登録者自身の生涯学習の場であり、来館者にとっても同じ市民が行うガイドは親しみやすく、優しい切り口で青銅器に臨むため学習のよい機会となる。また当館で研修を受けたガイドが他館でもガイドを行うなど、個人の活動の範囲の広がりとともに、当館のコレクションを紹介し未訪問者へ来館へのきっかけを作るなど、普及活動にも繋がっている。

2020年には新型コロナウイルス感染症対策によりガイドを長期休止し、2022年秋より再開したが、この期間に登録者が減少したため再募集と新人研修を行った。2023年は通期において活動を行ったが、2024年は建物改修工事により全面休館となった。

登録者には毎年1～2回のフォローアップ研修を行っているが、2024年はリニューアルオープン後の活動再開に向けた技能維持を目的として3回のフォローアップ研修を行った。3月15日には泉屋博古館の住友コレクションについて（実方学芸部長）、5月28日・7月26日には住友春翠の青銅器収集の経緯と館蔵品のうち古墳出土鏡について（山本学芸員（京都））それぞれ講義を行った。建物改修工事中につき、外部施設であるキャンパスプラザ京都（下京区）を利用した。



3月15日研修（実方）



7月26日研修（山本）

泉屋博古館設立の目的

当館は、住友家の収集にかかる古代青銅器を中心とする国宝、重要文化財等の美術工芸品および当館が取得した文化財の保存および公開、並びにこれらに関する調査研究を行い、学術研究の発展を図り、もって我が国の文化の向上と文化財の保護に寄与することを目的としております。

泉屋博古館の事業

当館は、上記目的を達成するため、次の事業を行います。

- (1) 美術工芸品の収集、保存および公開
- (2) 美術工芸品に関する調査研究、紀要、解説書、図録などの発行
- (3) 美術工芸品に関する研究会、講演会等の開催
- (4) 美術館の設置、運営
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

賛 助 会 員 2024 年 12 月 31 日現在

特別法人会員

住友化学株式会社	住友重機械工業株式会社
株式会社三井住友銀行	日本製鉄株式会社
住友金属鉱山株式会社	住友商事株式会社
三井住友信託銀行株式会社	住友生命保険相互会社
株式会社住友倉庫	住友電気工業株式会社
三井住友海上火災保険株式会社	日本板硝子株式会社
日本電気株式会社	住友不動産株式会社
住友大阪セメント株式会社	三井住友建設株式会社
住友ベークライト株式会社	住友林業株式会社
住友ゴム工業株式会社	住友ファーマ株式会社

法人会員（50 音順）

株式会社関西 C．I．C 研究所
ワケンホールディングス株式会社

個人会員（敬称略、50 音順）

足立 康庸 熊澤 保夫 藤見 知愛子
松波 弘之 武藤 治太 森 重文

役員・評議員

2024年12月31日現在

理 事 長	奥 正 之	三井住友フィナンシャルグループ名誉顧問
常務理事	北 野 幸 広	住友成泉社長
理 事	大久保 哲夫	三井住友トラストグループ会長
	岡 村 秀 典	黒川古文化研究所長
	小野寺 研一	住友不動産会長
	熊 倉 功 夫	MIHO MUSEUM 館長
	佐々木 丞平	京都国立博物館名誉館長
	住友 吉左衛門	住友財団理事長
	十 倉 雅 和	住友化学会長
	長 崎 巖	共立女子大学名誉教授
	中 里 佳 明	住友金属鉱山名誉顧問
	中 村 邦 晴	住友商事特別顧問
	新 野 隆	日本電気会長
	西 上 実	京都国立博物館名誉館員
	橋 本 雅 博	住友生命保険会長
	廣 川 守	泉屋博古館長
	松 本 正義	住友電気工業会長
監 事	磯野 與志嗣	税理士
	関 根 福 一	住友大阪セメント会長
	森 重 樹	日本板硝子会長
評 議 員	池 田 育 嗣	住友ゴム工業特別顧問
	市 川 晃	住友林業会長
	小 野 孝 則	住友倉庫社長
	柄 澤 康 喜	三井住友海上火災保険常任顧問
	近 藤 重 敏	三井住友建設特別顧問
	澤 井 実	住友史料館長
	下 村 真 司	住友重機械工業社長
	出 川 哲 朗	大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長
	友 野 宏	日本製鉄社友
	藤 原 一 彦	住友ベークライト社長
	馬 淵 明 子	前国立西洋美術館長

法人概要

貸借対照表

2024 年 12 月 31 日現在

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	428,106,154	149,247,387	278,858,767
棚卸資産	12,838,174	13,793,224	-955,050
仮払金	1,331,056	200,000	1,131,056
前払金	3,114,234	3,345,038	-230,804
前払費用	1,443,202	1,948,972	-505,770
立替金	10,415	25,432	-15,017
未収金	649,317	671,283	-21,966
流動資産合計	447,492,552	169,231,336	278,261,216
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
美術品	6,473,264,520	6,469,328,720	3,935,800
土地	2,882,732,000	2,882,732,000	0
投資有価証券	1,955,309,300	2,103,569,400	-148,260,100
基本財産合計	11,311,305,820	11,455,630,120	-144,324,300
(2) 特定資産			
宮繕積立資産	7,513,199	7,513,199	0
基本財産購入積立資産	14,773,807	14,773,807	0
保存公開事業積立資産	3,002,700	3,002,700	0
調査研究事業積立資産	20,431,000	20,431,000	0
株式	1,084,023,200	665,021,400	419,001,800
株式取得資金	71,216,380	52,563,184	18,653,196
構築物等	404,839	436,591	-31,752
特定資産合計	1,201,365,125	763,741,881	437,623,244
(3) その他固定資産			
建物	1,177,171,897	1,232,862,073	-55,690,176
その他	189,908,705	217,170,338	-27,261,633
建設仮勘定	1,302,034,250	26,972,000	1,275,062,250
長期前払費用	0	1,400,053	-1,400,053
その他固定資産合計	2,669,114,852	1,478,404,464	1,190,710,388
固定資産合計	15,181,785,797	13,697,776,465	1,484,009,332
資産合計	15,629,278,349	13,867,007,801	1,762,270,548
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	23,498,452	18,823,962	4,674,490
預り金	2,385,280	2,723,653	-338,373
流動負債合計	25,883,732	21,547,615	4,336,117
2. 固定負債			
敷金	960,000	960,000	0
その他固定負債	25,550,092	25,297,121	252,971
固定負債合計	26,510,092	26,257,121	252,971
負債合計	52,393,824	47,804,736	4,589,088
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
基本財産 美術品	6,459,801,120	6,459,801,120	0
特定資産 構築物等	404,839	436,591	-31,752
受取補助金	1,570,000	0	1,570,000
指定正味財産合計	6,461,775,959	6,460,237,711	1,538,248
(うち基本財産への充当額)	(6,459,801,120)	(6,459,801,120)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(404,839)	(436,591)	(-31,752)
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	9,115,108,566	7,358,965,354	1,756,143,212
(うち基本財産への充当額)	(4,851,504,700)	(4,995,829,000)	(-144,324,300)
(うち特定資産への充当額)	(1,200,960,286)	(763,305,290)	(437,654,996)
正味財産合計	15,576,884,525	13,819,203,065	1,757,681,460
負債及び正味財産合計	15,629,278,349	13,867,007,801	1,762,270,548

法人概要

正味財産増減計算書

2024年1月1日から2024年12月31日まで

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	43,279,805	43,097,399	182,406
特定資産運用益	33,959,114	25,597,786	8,361,328
入場料	43,887,148	50,361,888	-6,474,740
事業収益	30,071,453	46,316,752	-16,245,299
受取補助金等	7,093,168	10,635,000	-3,541,832
受取寄付金	1,740,550,000	347,960,857	1,392,589,143
補助金等	31,752	941,752	-910,000
指定正味財産からの振替額	830,135	2,239,229	-1,409,094
雑収益	1,899,702,575	527,150,663	1,372,551,912
経常収益計			
(2) 経常費用			
事業費			
展覧会費	50,198,648	95,896,141	-45,697,493
美術品修繕費	1,466,065	8,837,681	-7,371,616
調査研究費	10,065,387	10,225,058	-159,671
広告宣伝費	12,070,619	15,820,360	-3,749,741
給与費	85,553,191	86,100,319	-547,128
雑給	9,345,796	13,429,238	-4,083,442
旅費交通費	8,289,605	9,940,066	-1,650,461
通信運搬費	1,256,244	1,412,321	-156,077
光熱水道費	10,250,075	13,247,386	-2,997,311
消耗品費	3,371,779	2,506,183	865,596
保守費	25,017,809	23,634,283	1,383,526
賃借料	20,632,710	19,796,843	835,867
委託費	10,679,434	10,948,187	-268,753
本館改修工事関連費用	7,990,167	3,846,025	4,144,142
租税公課	4,179,650	3,894,932	284,718
雑費	2,967,299	1,833,395	1,133,904
特定資産減価償却費	31,752	31,752	0
その他固定資産減価償却費	78,271,514	80,398,586	-2,127,072
事業費計	341,637,744	401,798,756	-60,161,012
管理費			
給与費	43,118,478	43,603,263	-484,785
旅費交通費	3,490,261	2,881,993	608,268
通信運搬費	1,127,420	1,332,361	-204,941
光熱水道費	5,142,695	6,656,325	-1,513,630
消耗品費	1,698,697	1,340,125	358,572
保守費	10,342,744	10,733,009	-390,265
賃借料	8,935,498	10,117,368	-1,181,870
委託費	3,609,695	3,752,474	-142,779
雑費	3,079,415	2,878,728	200,687
その他固定資産減価償却費	6,576,423	6,438,825	137,598
管理費計	87,121,326	89,734,471	-2,613,145
経常費用計	428,759,070	491,533,227	-62,774,157
評価損益等調整前当期経常増減額	1,470,943,505	35,617,436	1,435,326,069
基本財産評価損益等	-48,260,100	-21,190,300	-27,069,800
特定資産評価損益等	337,654,996	138,842,227	198,812,769
評価損益等計	289,394,896	117,651,927	171,742,969
当期経常増減額	1,760,338,401	153,269,363	1,607,069,038
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
その他固定資産受贈益	133,192	149,930	-16,738
経常外収益計	133,192	149,930	-16,738
(2) 経常外費用			
その他固定資産除却損	4,328,381	198,000	4,130,381
経常外費用計	4,328,381	198,000	4,130,381
当期一般正味財産増減額	-4,195,189	-48,070	-4,147,119
当期一般正味財産増減額	1,756,143,212	153,221,293	1,602,921,919
一般正味財産期首残高	7,358,965,354	7,205,744,061	153,221,293
一般正味財産期末残高	9,115,108,566	7,358,965,354	1,756,143,212
II 指定正味財産増減の部			
固定資産受贈益	0	34,723,000	-34,723,000
受取補助金	1,570,000	0	1,570,000
一般正味財産への振替額	-31,752	-941,752	910,000
当期指定正味財産増減額	1,538,248	33,781,248	-32,243,000
指定正味財産期首残高	6,460,237,711	6,426,456,463	33,781,248
指定正味財産期末残高	6,461,775,959	6,460,237,711	1,538,248
III 正味財産期末残高	15,576,884,525	13,819,203,065	1,757,681,460

泉屋博古館蔵品紹介 第8回 近代日本最初の洋画コレクション

住友洋画コレクションの始まりは、15 代家長・住友春翠(1864～1926)が1897(明治30)年の欧米視察の際、パリで自ら選んで購入した印象派の画家モネによる2点の油彩画でした。今から約130年ほど前に将来されたこのモネ作品は、印象派の実作を日本人が見ることができた最初期のものとして記念碑的な位置を占めています。

春翠はその後20世紀に入ると、欧米の社会慈善事業に学んだ経験から、のちに関西美術院を開設することになる浅井忠やその後継者となる鹿子木孟郎ら、あるいはまた東京美術学校教授だった黒田清輝を積極的に支援しました。彼らを起点に、明治末から大正期にパリに留学し、帰朝後に日本の「洋画」を切り拓いた青年画家たちの作品が、その後次々と住友家に集められ、1903(明治36)年に本格的西洋建築として完成した住友須磨別邸などに飾られたのです。

その須磨別邸で幼少期を過ごした春翠の子弟たちもまた、その生涯に渡り自らの感性に沿った絵画コレクションを形成したのも、自然な成り行きでした。その内のひとり、住友寛一(1896～1956)は、大正洋画壇の異才・岸田劉生と親しく交わり、劉生の画業の上でも重要となる作品を収集しましたし、のちに16代を嗣いだ友成(1909～93)は、アララギ派の歌人として知られた一方、春翠コレクションの後継となる20世紀洋画を収集しています。なかでも昭和戦前期の日本のフォーヴィズムを代表する画家たちのコレクションは特徴的ですが、戦中戦後までルノワールやシャガール、あるいは熊谷守一など小品ながら魅力ある作品を愛蔵していたことは特筆に値します。

1945(昭和20)年6月の米軍による神戸空襲で須磨別邸に飾られていた黒田清輝やジョン＝ポール・ローランスなどの名画の大半が焼失したことは、日仏の近代絵画をめぐる交流史や美術史研究にとっては大きな損失といえますが、幸い焼失を免れたモネ作品などを有する住友洋画コレクションは、大原コレクションや松方コレクションに先駆ける「近代日本最初の洋画コレクション」との評価を受けているのです。

(野地 耕一郎)



クロード・モネ 《モンソー公園》
1876年 油彩・キャンバス、56.0 × 69.5 cm

印象派の実作として最初期に将来されたモネの絵。パリにいた画商林忠正を介してモネの手元にあったこの絵を春翠が選び出して購入。速やかなタッチで光を含んだ情景を描く印象派時代の作風をよく伝えている。

ジャン＝ポール・ローランス 《マルソー将軍の遺体の前のオーストリアの参謀たち》
1877年 油彩・キャンバス、210.0 × 300.0 cm

ローランスは、19世紀後期フランス官学派の巨匠。この絵は、1877年のサロンで栄誉賞を受賞した作。春翠の支援を受けパリに留学していた鹿子木孟郎の仲介で購入された。印象派と同時代の官学派の重厚な作品が揃っているのも住友コレクションの特色。150年を経て劣化した画面が修復され、今年鮮やかな色彩が蘇る。



岸田劉生 《二人麗子図 (童女飾髪図)》
1922年 油彩・キャンバス、100.3 × 80.3 cm

岸田劉生と交友した住友寛一の購入品。中国北宋時代の寒山拾得図や錦絵の髪梳き図などから想を得て、麗子を一つの画面に二人描き込んだ奇想の図様。それまでのデューラーばりの麗子像から、東洋的な「グロテスクの味」を加え出した劉生後期の傑作とされる。

ピエール＝オーギュスト・ルノワール 《静物 (ブラム)》
1905年頃 油彩・キャンバス、24.0 × 33.2 cm

16代友成の戦時中の購入品。明るい色彩の裸婦像で知られるルノワールは、晩年リウマチが悪化して手に力が入らなくなっていたにも拘わらず、のびやかな筆致とぬくもりを感じさせる明るく輝くような静物画もよく描いた。横浜の俣野邸に飾られていた。



2025 年展覧会予定

泉屋博古館

ブロンズギャラリー 中国青銅器の時代

4月26日－8月17日

9月27日－12月14日

リニューアル記念名品展Ⅰ

帰ってきた泉屋博古館 いにしへの至宝たち

4月26日－6月8日

リニューアル記念名品展Ⅱ

続・帰ってきた泉屋博古館 近代の美術、もうひとつの在り方

6月21日－8月3日

特別展 生誕 151 年目の鹿子木孟郎－写実絵画の精髓－

9月27日－12月14日

泉屋博古館東京

企画展 花器のある風景

1月25日－3月16日

受贈記念 大郷理明コレクションの花器

企画展 ライトアップ木島櫻谷Ⅱ

4月5日－5月18日

－おうこくの線をさがしに 併設四季連作屏風

同時開催 特集展示 住友財団助成による文化財修復成果－文化財よ、永遠に 2025

企画展 ^{ナラティヴ} 死と再生の物語 －中国古代の神話とデザイン－

6月7日－7月27日

特別展 巨匠ハインツ・ヴェルナーの描いた物語 ^{メルヘン}

8月30日－11月3日

－現代マイセンの磁器芸術－

企画展 もてなす美 －能と茶のつどい

11月22日－12月21日

